

2022年度 学校法人修道学園事業計画達成状況<広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった 2023年3月31日現在

主要項目	具体策	進捗状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
<b>I 学力の向上</b>					
1 学力向上の取組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。	各学期末の教科会で共有し、定期試験の得点や模擬試験の結果との関係などについて検討し、次年度の実施計画を策定した。	教務部 学年会	通年	○
	②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。	生徒指導部との連携によって、取り組みの充実を図った。また、ノーチャイムデーを設定したことで生徒・教員共に時間管理の意識が高くなった。	教務部 学年会	通年	○
	③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけ、それを生徒と共に実施する。	概ね、落ち着いて読書を行うことができた。一方で、3学期は各行事等で実施できない日が多くなるなど、朝読の実施方法や内容について、学内で議論する必要がある。	協創教育部 学年会	通年	○
	④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	2月の1回のみの実施となった。アンケートに係る対応策に関係部署で協議し、改善策について全教員で共有した。	教務部 学年会	通年	○
2 探究型学力(主体的学び)を目指す授業づくりの促進	①「エミット学習」(描く・観る・問う)やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。	「エミット学習」を活用した授業づくりについては、ルーブリック研修を通じて確認、共有した。また、ICT活用については、不定期に、また希望者による研修を実施した。	教務部 協創教育部	通年	○
	②探究的な学びを促進する発問の仕方や課題の出し方について研究し実践する。	教員研修会を通じて学ぶ機会を得たが、各教科での具体的な取り組みや検討・協議までには至らなかった。	教務部	通年	△
	③参加型授業の研究・実践を行う。	教科での授業観察や教科会で検討を図りながら、11月の公開研究授業を通じて全体での共有を図ることができた。	教務部	通年	○
<b>II 進路指導の強化</b>					
1 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」の作成とそれに基づく取り組みを充実させていく。	進路シラバスに基づき、取り組みができた。高1・2年生では修大訪問、進路ガイダンス等の予定していた行事を遂行することができた。進路資料集は4月に配布することができた。	進路指導部 学年会	4月～11月	○
	②広島修道大学附属校推薦・総合型選抜・学校推薦型選抜対策案を企画・立案し、実施する。	高校3年学年団と合同で夏休み中に面接学習会と面接模擬試験を開催し、面接対策を行った。附属校推薦の被推薦者に対して学部ごとのミーティングおよび面接対策学習会を開催できた。高校3年学年団を中心に、総合型選抜と学校推薦型選抜対策として、個別に小論文やプレゼンテーション発表、ディスカッション、面接練習を行った。	進路指導部	4月～1月	○
	③「協創スマート予備校」など、進路希望に応じた効果的な補習体制を整える。	6月から放課後補習を高2・3全年で実施するとともにスマート予備校を実施。夏休みより中学全学年、高1～3まで夏休み補習、高校はスマート予備校を実施した。また、2学期より中学3学年、高校全学年対象の放課後補習、スマート予備校を実施している。さらに、高校3年生には共通テスト直前講習会と国立2次試験対策を実施した。スタディサプリアの実施に関しては、配信機能を使用して苦手克服課題や単元別の配信を行った。また、生徒によっては自学自習の一つとして個別に取り組めた。	進路指導部	通年	○
	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	中学1・2・3学力推移、高1・2スタサボ、高1・2ベネッセ記述模試について結果を分析し、職員会議、教科主任会議で情報を共有するとともに、教科指導に活かすよう依頼した。高1の文理選択、高2の進路実現につなげるように学年団とも協力をした。高3の進路指導について、ベネッセハイスクールオンラインを活用し、生徒に有益な情報を与えると共に信頼できるデータに基づいて進路指導をした。	進路指導部	通年	○

2022年度 学校法人修道学園事業計画達成状況<広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった 2023年3月31日現在

主要項目	具体策	進捗状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
<b>Ⅲ 自立(自律)心の育成</b>					
1 規範意識や倫理観の育成	<p>①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。</p> <p>②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。</p> <p>③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。</p>	<p>身だしなみにおいて、朝の登校指導や教室以外の場などを中心に声掛けを行った。学年主任とも連携し、円滑かつ一貫的な指導を行うことができた。掃除は、自主的・奉仕的に動く生徒が増えている。ゴミの分別も概ね良くなってきている。</p> <p>挨拶をする生徒はこの1年～2年で非常に増えている。9割以上の生徒は自分から挨拶できる。</p> <p>時間に関しては、2学期より始まったノーチャイムデイで結果を確認できる。実施直後は授業時間に遅れる生徒もいたが、現在はチャイムが鳴らなくても自分で時間を確認しベル着を実践している。</p> <p>全ての行事の目的や計画確立において、「AIM HIGH」を念頭に生徒自治会が目標やスローガンを決めている。生徒自治会主催の地域清掃ボランティアもその一環で今年度から月2回ペースで実施した。地域清掃ボランティアをしている最中、地域の方から「ありがとう」「ご苦労様」といった声掛けや一緒になって清掃活動を手伝っていただける方も現れ始めた。これらの活動を通して、生徒たちに、さらなる高みを目指した取組ができるよう支援していく。</p> <p>1学期に交通安全指導、スマホ・ケータイ教室、2学期に薬物乱用防止教室、3学期に入学生徒及び保護者を対象としたSNS講演会など、生徒たちの安全と安心した学校生活のための啓発活動を実施した。また、朝礼や学年集会などの機会にルールの厳守やマナーの徹底を指導している。さらに、今年度より地元町内会と連携し、登校路の変更を行った。</p>	生徒指導部 学年会	通年	○
2 学校生活の活性化	<p>①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。</p> <p>②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。</p> <p>③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。</p>	<p>全ての行事の計画・立案・作成・運営・進行を生徒自治会主体で行った。自治会の意志やモチベーションは高く、何事にも一生懸命取り組むことができた。既存行事の企画・運営は順調な一方で、「新たな」行事や取り組みとなるとまだまだ伸びしろが残っているように思われる。自治会生徒みんなで新しいことにも積極的にチャレンジし共に協力し創りあげていこうサポートする必要がある。</p> <p>行事の実施前と実施後に自治会で作成した動画を校内で流すとともに校外へSNSを通じて配信している。また、日々の活動をブログ形式でHP上に掲載し、自治会活動のアピールを行った。3学期からは、自治会新聞の発行を行った。月一のペースで発行する。今後、「自治会ラジオ(仮)」を構想中で、昼休みに放送部とタイアップして実施する。</p> <p>部活動加入を推奨しており、実際、多くの生徒が部活動に加入している。4月に行ったクラブ紹介では先輩生徒によるパフォーマンスによりクラブ加入率が高まった。近年は、学校生活に慣れた年度途中の2学期・3学期から加入する傾向もみられようになった。</p>	生徒指導部	通年	○
<b>Ⅳ 協創教育の推進</b>					
1 「4つの力」(探究型学力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。	「協創ルーブリック」については、様々な行事において意図的な活用が図られた。また、教員研修会におけるルーブリック研修を軸にしなが、各教科で「教科別ルーブリック」のブラッシュアップに取り組むことができた。	教務部	通年	○
2 「探究科」授業の充実	①地域に密着した身近な課題から生徒が4つの力を意識して解決策を模索し、中高の系統性を鑑みるとともに思考の深化を図る授業に取り組む。	中学は体験を基本としたプログラムを実施した。高1は「Locus」を活用し、地域の企業を訪問する機会を設けた。高2は修大コースにおいて広島修道大との連携プログラムを実施した。高3は高校生ビジネスプラングランプリに取り組んだ。次年度はこれまでの探究の在り方を再検討し、プログラムを再構築する方向で準備を進めている。	協創教育部	通年	○
3 「GCP」(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のGCPを探究授業の中で取り組む。	GCPの授業は順調に行われている。英語中心で授業は進行するが、内容は教科にとらわれないものになっている。再来年度の高1は、どのclimbを使うのかという問題が生じる。あわせて、単位数が限られている中、内容を考えて、高校3年生・2年生まで実施すべきか協議する必要がある。	協創教育部	通年	○

2022年度 学校法人修道学園事業計画達成状況<広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった 2023年3月31日現在

主要項目	具体策	進捗状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
4 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。	海外提携校・姉妹校との交流は滞っている。コロナの影響が長引き、オンラインでの交流も難しかった。その中で、PIAのオンライン英会話(中学生対象)は実施できた。年度途中からAFS経由でアジアの架け橋生としてブータンからの留学生を受け入れることができたが、年度途中からの来日ということもあり、準備が整わず、生徒との交流が十分にできなかった点は今後の課題である。	協創教育部	通年	△
	②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	海外からの入国規制の緩和により、広島修道大学の留学生との交流は活性化しつつあり、高校生徒の交流、神楽鑑賞、留学生による語学講座を実施することができた。来年度は複数の交流を行うとともに、カルチャーハイキングも実施する方向で国際センターと協議を重ねている。	協創教育部	通年	○
5 ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	文字の入力を容易にするため、今年度からiPadをキーボード付きのchromebookに変更した。年間の研修計画の中心がルーブリックに関する研修であったこともあり、全体での協働的な学びやICTに関する研修を行う時間が取れなかった。協働的な学びを進める中でICT機器の活用が進むよう、利用しやすいサービスやアプリを導入していく必要がある。	協創教育部	通年	△
<b>V 教育力の向上</b>					
1 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「バディ制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導、助言する。	担当教員を任命し、指導助言を行った。また、この指導を契機に職員室内でのコミュニケーションがこれまで以上に図られるようになった。	教務部	通年	○
	②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。研修は、経験年数別、マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	ルーブリックに関する研修を4回、公開研究授業に関する研修を2回、コミュニケーションに関する研修を2回、その他、授業力向上研修、学習評価に関する研修を年間を通じて行った。	教務部	通年	○
2 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	昨年に引き続き、ルーブリック評価をテーマとして公開研究授業を実施した。今回は他校の教員や広島修道大学、県立広島大学の学生が多数来校し、多くの方から助言をいただける機会となった。	教務部	11月	○
3 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	県立広島大学教授を外部評価者として招聘し、年2回の授業観察を実施した。また、その際の評価と助言を教科内で共有し、11月の公開研究授業での教案検討に生かすことができた。	教務部	通年	○
4 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教科別ルーブリックのブラッシュアップは教科によって差異があったものの、主要科目を中心に評価を試みることができた。その結果をもとに次年度ブラッシュアップにつなげていきたい。	教務部	通年	○
	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	2月の1回のみの実施となった。アンケートに係る対応策に関係部署で協議し、改善策について全教員で共有した。	教務部	7月、2月	○

2022年度 学校法人修道学園事業計画達成状況<広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった 2023年3月31日現在

主要項目	具体策	進捗状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
<b>VI 生徒募集の充実</b>					
1 戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	今年度、来校型のOSを中高それぞれ1回ずつ減らし、公開模試を除いて2回ずつ実施した。 中学OS申込状況：6月実施(オンデマンド) 79名 昨年度比30%、7月実施 304名 昨年度比109%、10月実施 188名 昨年度比114%、公開模試 156名 昨年度比83% OSで終わらず、その後、入試まで定期的に学校情報を提供し続けることが重要であり、紙媒体のDMと電子メールでは効果の性質が異なるため、両立して行っていくことが必要だと考える。 高校OS申込状況：6・7月実施 719名 昨年度比138%、10月実施 400名 昨年度比85% 昨年度に比べて減少したものの、予定通りの受験者数を確保することができた。10月のOS申込者数が減少していることから、学校の魅力を的確に伝えることができるよう、OSや中学校での説明会の内容を見直す必要がある。 地域別相談会、夜のプチ説明会は予定通り開催をすることができたが、次年度に向けて内容の見直しが必要である。特に夜のプチ説明会は、目的が異なる参加者一人ひとりの期待に応えることができる内容とすることができず、受験・入学へつなげるという当初の目的を果たすことができなかった。以前行っていた個別相談のスタイルの方が効果的だと考える。	企画広報部	5月～11月	△
	②ウェブ(ホームページ及びSNS)での発信をこれまで以上に充実させる。	高校ブログの更新率が低いことが課題であり、意識して取り組んだ。ブログ更新率は中学校86%(投稿数216)、高校74%(投稿数161)と、目標であった100%を達成することはできなかったものの、昨年度と比べると更新率を上げることができた。毎日更新をすることが定着してきたため、今後は教育内容やOSの情報などを的確に発信できるよう、内容の充実にも取り組んでいく必要がある。その他の学校情報等は整理、改修を進めることができた。 SNSでの情報発信については、部内で担当を決めることができず、達成できなかった。近年の傾向より、HPと同様にInstagramやLINEを用いた広報活動も非常に重要だと考えられる。次年度は現在行っているHPブログでの情報発信をInstagramでの発信に切り替え、更新頻度を上げるとともに、SNSの内容を充実させていきたい。	企画広報部	通年	△
	③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	目標としていた各訪問時期までに資料作成、説明を行い、全教員に周知を図ることも実施できなかった。新しい教員も多い中、説明内容に差がでないよう、これまで以上に丁寧な訪問マニュアルを作ることが必要である。 訪問先の厳選については次年度に向けて、これから今年度のまとめと分析を行っていく。これまでの入学者名簿や訪問担当から得られた情報を整理し、次年度以降に見直しが行われるよう引き継ぐ。	企画広報部	5月～11月	△
<b>VII 学校組織力の強化</b>					
1 組織体制の充実	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定し、校務運営の円滑化を図る。また、その振り返りを全教員で共有する。 ②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成する。 ③スクールポリシー及び「協創の教育2022」を公表し、本校のめざす学校像を内外に発信する。 ④昨年度設置した研修主任及び今年度新たに設置する中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育の充実を図る。	中期事業計画を踏まえた年度計画を策定し、当該計画をもとに各種事業を実施することができた。 事業の内容により達成度にはバラツキがあったが、その原因を分析し、翌年度に活かせるよう情報を共有していく。 年度事業計画に基づいた教科別事業計画については、今年度から本格導入した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を通じて各教科主任が作成した。その計画に対して管理職から面談を通じて助言し、教科運営の調整を図った。 2022年度の学校経営方針を示した「協創の教育2022」を年度当初に全教職員に提示し、今年度取り組むべき事業について全教職員と意識の統一を図った。 学校教育法施行規則の改正により求められた高等学校における三つの方針(いわゆる「スクール・ポリシー」)を策定し、本校ホームページにおいて公表した。 年間の研修計画を年度当初に策定し、今年度は、ルーブリック研修を中心とした年間9回の全体研修を計画通り実施することができた。 また、中高一貫教育については、中高一貫のメリットを活かせるよう、今年度より本校中学校から内部進学した高校1年生を「一貫A」「一貫B」の2つのクラスとして編成し、教育内容の充実を図った。	各部 教務部 管理職、 教務部 管理職、 教務部	通年 通年 4月 通年	○ ○ ○ ○
2 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を今年度より本格的に運用し、教職員の成長を支援する。	校長から示された年度目標を踏まえて各自が作成した協創シートをもとに、管理職と教員が個別に年3回(期初、中間、期末)の面談を行った。面談を通して、各教員が掲げた年間目標の達成状況を把握するとともに、必要に応じてアドバイスを行うことができた。今後は、より適切な目標を掲げて各自が取り組めるよう、期初の面談の充実を図っていく。	管理職	通年	○

2022年度 学校法人修道学園事業計画達成状況<広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○:実施完了した △:実施中である ×:実施できなかった 2023年3月31日現在

主要項目	具 体 策	進捗状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×	
<b>VII 事務室の機能強化</b>						
	<p>①今年度から本格導入する「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。</p> <p>②教職員の勤務管理を適切に行うとともに、健康の保持増進に努める。</p> <p>③収支バランスの改善を図る観点から、2023年度入学生の授業料及び施設・設備資金の在り方について検討する。</p> <p>④施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。</p>	<p>職員本人が作成したキャリアアップシートをもとに、年3回(期初、中間、期末)の面談を実施し、年間の目標を確認するとともに、進捗・達成状況を話し合うことができた。教育目標を達成するため、このシステムを通して、職員個々のスキルアップを図る取り組みができた。</p> <p>教職員が生き生きと活躍できる職場を目指し、「これからの新たな働き方」に示したルールに基づき、適切な時間外勤務となるよう努めた。 また、年次有給休暇の取得状況を随時行い、元気回復のための年休取得に努めた。</p> <p>今後10年先を見通し、持続可能な安定した学校経営を行い、これまで以上に教育内容の充実を図るため、2023年度中学校及び高等学校の入学者から授業料及び施設・設備資金の額の改定を行うこととした。</p> <p>施設・設備中期保全計画に基づき、2号館の改修を計画通り実施した。 なお、今後の生徒増を想定し、3号館を教室として活用できるよう1号館から3号館への渡り廊下及び園芸棟の建て替えを行った。</p>	<p>事務室</p> <p>事務室</p> <p>事務室</p> <p>事務室</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	